

オルフェの自白

中村文昭

弓は二極に雪をわった

ふるえる余白は水子の表・面・張・力

真珠の脱糞！ 闇へはじく

とおのく矢印に限りなく泡立ち濺む運河

自殺者の鋭い残雪 “まるごとかき切ってはいけない”

標的の卵を産む（黄味をおよぐ）水鳥の水掻きを凍らし

“恋”とよびかけるな

殺しても所有できない速度が暗黒なんだ

自転する強度の樹木……一人で二人・顔音の蛆渦？

魂はまっすぐ織く揺れている

誰ダ一体？

光のサフランを切りきざむ彩度の包丁

舞姫の墓石が蒼空を呑む零度の声（誰ダ一体？）

パレットの戦場を

口紅よ

青年は食卓に咲く真空火花を瞬間かきあつめる瀕死者！  
たちまち水面は便器 龍は流れる

赤い運河が洗濯する女たちの月経帯と  
錆びた斧を打ちこむ天使の根をぬく 穢れた手と  
人肉フルーツから慧星のすっぱい記憶へ  
肋骨の長距離ランナー（骨は笑う！）は  
一房の宇宙 無絃の竖琴を擦過する

「死」は白亜紀の旗をふる……  
はずむ歯の走路は血をなめす……

無知！ あれは雪明りを踏む登音

極北へ舞いおちるエウリディケの羽根が触れた  
オルフェの金属だ

とおのく矢印に限りなく泡立ち激む運河  
自殺者の鋭い残雪 “まることかき切つてはいけない”  
肉体は動ずむ四本脚のうみである